



一圖 織物の模様(復原圖)

る。そしてかゝる食肉鳥獸をあるひはそのまゝに、あるひは神話化してモチーフにすることについて、更に根源を求めて見ると、非常に古い時代にさかのぼるもので、紀元前三千年時代のカルデヤの貝殻彫刻に、シンが雄牛を襲へる寫實的の構圖が既に見えてをり、シベリヤから出る牌上にしばしば認められるこの種の模様は、總體においてこれと類似して居る。この古くカルデヤに起つたモチーフは、紀元前九世紀のアッシリヤの彫刻にも現はれてをり、外に傳はつては、西はスカンデナビヤ、あるひは更に遠くまでおよんで居るらしく、南は地中海地方に、東は支那に至つたもので、漢時代のものと思はれる多くの銅器にも、これが見えてゐる。尙注意すべきはこの動物の上方に現はれてゐる縁の模様に見える特種の十字形で、これもアッシリヤ起源で、後代にはペルシャのササン美術や、アラビヤ美術において認められる。兩十字形の間に見える形も、同じ性質に屬するものである。